

ソフィア市中心部にある温泉場

＜玉 生 志 郎＞

ブルガリアには第四紀火山はありませんが、たくさんの温泉が各地で湧出しており、それらは古くから温泉医療に利用されてきています。いずれの温泉も非火山性で、最高泉温でも100℃を僅かに超える程度です。従って、地熱発電に使用することは難しいのですが、冷暖房や温室などには有効に利用できます。実際、ブルガリアでは温泉利用が広範にすすめられています。温泉リゾート用として入浴やプールにも広く利用されています。首都のソフィアの中心地から湧出する温泉は、トルコ式の公衆浴場として利用されていましたが、現在は改修中のため、温泉水の水汲場として解放されています。ブルガリアの温泉は、日本の平野部に見られるような深層熱水資源とは異なり、先第三系基盤岩類中の空隙率の高い堆積岩や断裂系に賦存しています。ブルガリア北部の中生代堆積岩中の温泉は被圧されていて、西部から東部にかけて広域的な側方流動を起こした後、黒海沿岸で湧き出しています。ブルガリア各地の温泉利用の代表的な事例を、以下に写真で紹介します。



写真1 公共の温泉水汲場。



写真2 左写真の隣にある改修中のトルコ式銭湯。



写真3 4世紀にローマ時代に建設された聖ゲオルギ教会と浴場跡。



写真4 ソフィアの南西にあるヴィトシャ山(標高2290m)中腹コビトトから見下ろしたソフィア市内、ソフィアは標高550mの高原都市である。